

蔵出しお宝ニュース

— 第 7 号 —

三原市歴史民俗資料館では、本年度より所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

幻の三原城天主閣を描いた掛軸 見つかる

この度、資料館収蔵庫の奥から幻の三原城天主閣を描いた大きな掛軸が見つかりました。古めかしい桐箱に「三原城」と墨書されており、大きさからして、さては三原城の絵図面かと胸をドキドキさせながら掛けてみますと、何と立派な天主閣が現れました。昭和7（1932）年に草雲という画家が描いたようですが、なかなかの大作です。ただし三原地方の画家ではなかったのでしょうか、波のうねり方、石垣の角度、松の生えている位置、月の出方などから、明らかに三原を訪問したことがなかったのではないかと察せられます。

三原城は永禄 10（1567）年に大島小島を母体に周りを埋め立てて作られた、日本で最初に完成した海城です。ただ、どういうわけか天主台（三原城は天守ではなく天主と絵図面に記されています）は作られましたが、天主閣は明治に至るまで建てられることはありませんでした。おそらくこの作品は、もし三原城に天主閣が建っていたならばこのような様子になっていたのではないかという想像と、三原城への敬慕の思いから描かれたのではないかと思います。この作品は一時期、三原市役所内にも展示されていたことが古写真からわかりました。作品と直接関係があるかどうかはわかりませんが、やっさ踊りの浴衣や子ども用のハッピー、お菓子の包装のデザインにも幻の三原城天主閣が描かれています。



この作品は前記の通り大変大きく、横幅だけでも約2mありますので、資料館内ではすぐに展示することができず、公開はいたしておりませんのであしからずご了承ください。11月4日（日）に第9回三原浮城まつりが開催されますが、これにあわせて三原駅前の市民ギャラリーにて企画展を行いたいと思っておりますので、この機会にご披露申し上げたいと考えています。企画展については次号で詳しくご紹介いたします。

（左）幻の三原城天主閣が描かれた掛軸

三原ふるさと子ども博士講座で“みはら”を学ぶ

9月23日（日）の午前中、三原ふるさと子ども博士講座を受講している三原市内の小学生31名と、その保護者の皆さんがご来館くださいました。三原ふるさと子ども博士講座は、本年度から三原市教育委員会が主催している講座で、三原市内の子どもを対象に、年間7回の自然・歴史・産業などの体験学習を行い、ふるさとを知り、ふるさとに誇りをもてる子どもを育成することを目的としています。この日は第6回目の講座で、「ナウマンゾウに会いに行くゾウ。三原からもナウマンゾウの骨が出てきたんだって!」という内容でした。資料館に初めてやってきた受講者も多く、さまざまな発見があったようです。資料館職員が約40分かけて資料館の説明を行いました。三原沖から発見されたナウマンゾウの化石、土器、のぞきからくりや三原城、三原の刀剣や三原酒など、三原が全国に誇る歴史と文化の解説に、将来の三原を担う子どもたちは興味津々でした。口上のテープを館内に流し、日本に2台しかないといわれるのぞきからくりを見る子どもたちの姿は大変楽しそうでした。またこの日は、中世の三原が育んだ鉄の文化で、現在でも刀剣界で全国的に定評のある三原物を1振、特別に鑑賞していただきました。約430年前に三原で打たれた刀ですが、今でも青白く光輝く刀身に「とってもきれい」「何で古いものなのにぴかぴかなの」と感想をいただきましてうれしくしています。資料館見学後はバスに乗って倉敷市立自然史博物館に向かい、ナウマンゾウの化石などを見学しました。

ぜひ三原のまちを誇りに思い、歴史や文化を大切にする大人に成長してくださいね。

（右）のぞきからくりを見学

（左）三原物の鑑賞と解説に聞き入る子どもたち



おき どこ しゅん じゅう
置 床 春 秋



掛物 常春 筆 月兎画賛
 （今年は9月30日の日曜日が中秋の名月です。
 この掛軸はうさぎの餅つきではなく、うさぎが月の舟を漕ぐという珍しい画題です。）

花入 びく籠 花 季のもの

発行 平成24年（2012）9月28日
 〒723-0015 三原市円一町2丁目3-2
 （三原市立中央図書館北隣）TEL 0848-62-5595
 三原市歴史民俗資料館 山崎愛一郎 編集
 ※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用な
 らないようにお願い申し上げます。